

2017年4月14日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 升本 潔

Bangladesh国ダッカ都市交通整備事業（1号線及び5号線）
（協力準備調査（有償））
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年4月3日（月）14:00～16:34
 - ・場所：JICA 本部（1階 111 会議室）
 - ・ワーキンググループ委員：石田委員、久保田委員、清水谷委員、田辺委員、原嶋委員、升本委員（石田委員はメール審議にて参加）
 - ・議題：標題事業に係るスコーピング案についての助言案作成
 - ・配付資料：1) スコーピング案 事前配布資料
2) 質問回答表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第79回委員会）

- ・日時：2017年4月14日（金）14:30～16:40
- ・場所：JICA 本部（1階 113 連結会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 代替的輸送手段の必要性については道路密度が低いことに加えダッカの抱える交通手段の現状を踏まえて DFR に記述すること。
2. 駅舎周辺の開発に伴う影響が、本調査の対象に含まれない理由を DFR に記述すること。
3. 円借款により工事がすでに進められている MRT6 号線の環境社会配慮の課題や留意点を確認し、今回の事業の計画に反映すること（特に住民移転、用地取得や生計回復支援）。また、それ以外でもダッカでは多くのドナーによる事業が実施されていることから、他ドナーの事業（例えば ADB のバス高速輸送システム（BRT））の環境社会配慮の経験、課題も可能な限り確認し、DFR に反映すること。

代替案の検討

4. 本事業の代替案検討については、改訂ダッカ都市交通戦略計画（RSTP）において実施された戦略的環境アセスメント（SEA）の結果を踏まえて DFR に記述すること。
5. 代替案の比較において、全般的に高架よりも地下方式を推奨しているが、多発する浸水・洪水によるリスクを考慮すること。
6. 代替案の比較において、施工費や環境社会影響項目等の総合的な評価を DFR では明確にすること。

スコアリングマトリクス

7. 1 号線、5 号線およびその他の並行して実施される事業の工事中および供用後の累積的影響を評価し、その結果を DFR に記述すること。

環境配慮

8. 駅舎やメンテナンス施設からの排水の処理対策を検討すること。
9. 工事影響の確認の一環として供用後の地下水モニタリングの必要性について検討し、その結果を DFR に記述すること。
10. 骨材の調達に関して、グリーン調達の可能性につき、バ政府と協議すること。
11. 建設残土の有害性に対するサンプリング計画と手法を確認するとともに、建設残土の適正な処分方法を DFR に記載すること。また、その他工事中に発生する建設廃棄物の処理方針を確認すること。

社会配慮

12. 代替地による補償を行う場合は、生計手段の確保やその回復を考慮して、既存コミュニティからの距離やアクセス手段を調査し、DFR に記述すること。
13. 長期的な雨水停滞や停電の多い地域であることなどの特徴を踏まえ、水害対策を検討し、DFR に記述すること。
14. 駅の設置場所の検討にあたって、浸水被害リスクの高い地域への人口流入を回避・最小化することを検討し、DFR に記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

15. 第一回協議の結果の限り、協議への女性参加が極めて少ないので、今後の協議では計画に準じて女性向けのフォーカスグループディスカッションなどの開催を行うよう、バ政府側に働きかけること。

以上